



MASTER OF  
RENOVATION

## 最新のエコシステムを実現する家。

書斎の壁に熱帯植物が生い茂り、足下では魚が泳ぐ!? 植物の壁で知られる  
稀代の植物学者の新たな挑戦は、水槽の床。パリの自邸に熱帯のエコシステムを再現しました。

photo\_Kozumi Higaki text\_Chiyo Sagae

2階建てロフトの階下は広大なオープン空間。  
その奥で仕事するパトリック・プランの書斎  
は光にあふれ、まるで写真的熱帯雨林のよう。



# 植物学者の夢を叶えたリノベ術。

## パトリック・ブラン

植物学者

Patrick Blanc CNRS (国立科学研究所)  
植物学者。子供のころから水と植物に魅入られ、86年以降世界各地に200以上の「垂直の庭」を制作。現在、新山駅前の壁も制作中。  
<http://www.verticalgardenpatrickblanc.com>



3 床の上に置いた水槽は高さ25cm×6m×7m。4 水面とガラスに隙間はないが、水面の25%が空気に触れるよう縁を掘り、床の一部も透気性のある金属板に。5 水槽の横からも魚が見える。



1 カラフルな熱帯の小鳥たちが家の中に共生し、植物の葉や枝を自由に飛び交う。ほか、トカゲやカエルのおかげで、害虫が発生しないのだという。2 防水加工を施し、表面をガラスで覆って、水中に沈めるかのようには水槽内に続く既存のコンクリート階段。右端は一面、植物の壁。

### 「垂

直の庭」の名で知られる緑あふれる植物の壁を世界各地で実現し、

高い評価を受けるパトリック・ブラン。その斬新さで注目を浴びるが、本来、植物学者である彼の夢は、「水と植物、そして多種の生物の調和に満ちた環境作り」だ。常々そう語ってきた彼は4年前、パリ郊外の古いロフトを購入。これに手を加え、幼いころからの夢をひそかに自邸で実現していた。吹き抜けの高い天窓から降り注ぐ光の下、シダやツタ、コケ280種が繁茂する緑の壁に囲まれ、小鳥のさえずりをBGMにパトリックはPCに向かう。その足下には、ガラス張りの床……と思いきや、42㎡もの巨大な水槽！ 上からのぞけば、色とりどりの熱帯魚60種、亀など、2000匹余りが泳ぎ、水草が揺れている。これが家の要、植物の壁と水槽の床を兼ねた前代未聞の書斎である。「植物と共生する水槽の床を作るべく物件を探したんだ」。

選んだ物件は、通や隣家に接する扉も窓もない古いロフト。四方を壁に囲まれた閉鎖空間だ。だが、この書斎と、家の中心に位置する天井のない中庭が、驚きの開放感を生む。閉塞感のある石の壁を、細眼に眺め熱帯のジャングルのような印象に変えたのだ。外の景色やそよ風を招き入れる窓もなしに、涼やかな空気が流れるのは、このグリーンエネルギーのおかげだろうか。ここでは、植物による空気の浄化を肌で感じられ、自然に囲まれたときのように静謐な気持ちになる。また、外部と遮断された家だからこそ、街の騒音はゼロ。



通りに面した入口。改築も塗装もしないFFの奥の家は、まさに隠れ家。まず植物のようなスペースがあり、その奥に家の主院。



10



6 階下の中庭に接する大きなリビング。右手にオープンキッチン、左手にソファのあるくつろぎ空間。正面奥が書斎。7 2階の寝室からシャワールーム、中庭に面したテラスが見える。左は中庭を囲む通り廊下。外部とは接していないが、屋外のような開放感がある。8 中庭の床も「水上を歩ける道」に改装。ガラス張りですこやかなが、水槽の床とシステムは同じ。9 冬でも屋外でシャワーを浴びるというパトリック。10 ゲストルーム隣のシャワールームにも植物の壁がある。



う羽着さえ脱ぎ、トカゲが壁を這い、小ガエルが水面でくつろぐ様にしばし眺め入ってしまう。「水槽の水温は年間を通じて26〜27℃に保っているから、冬に暖房もいらぬ(笑)。暮らし始めてから発見したこと多いんだよ」リノベ予算の3分の2を植物の壁と水槽の床に費やしたというパトリック。だから、物件自体の改装はくわずかだ。例えば日本の温泉のように緑の中で入浴したいと、中庭に面した2階のシャワールームは自然光を取り込むガラス張りにし、石の台座を置いた。また膨大な資料や書籍を取るために、リノベを担当した建築家、ジル・エベルソルトが考案した巨大な箱で書斎の壁一面を埋めた。コンクリートブロックを作るための木箱を兼ねただけで制作した書棚は安価で丈夫、なにより耐水性に優れる点が水辺に最適だった。「リノベのポイント? それは自分に必要な空間を持つ物件を見つけること。家の構造に手をつけず、いかに細部で目的を果たせるか。それにかかっている」というパトリックの主張は、やはり水辺を中心とする小さなエコシステムの中心で暮らすことにはかならない。水上生活を可能にした超モダンな水槽は、エコシステムのお手本だ。水草は水を浄化し、魚のフンが植物を育て、再生を繰り返す。ガラスの内側についた藻は小魚が、死んだ魚は雨の雫が食べる。そのおかげで、水は常に澄む。植物の壁は、その水溜の森に見立てた。飾りやインテリアのためでなく、他を生きし、他に助けられて循環する小さな生態系の恩恵に浸る家。それがパトリックのリノベだった。